



全日、入賞果たす！

11月2日から11月5日、全日本学生ヨット選手権大会が福井県若狭和田マリーナにて開催されました。1年間、この大会で勝つためだけに練習をして参りました。七帝戦完全優勝、九州インカレ団体戦完全優勝と、九大は勢いこのったまま若狭の地に乗り込みました。

2年以上の部員は10月28日から11月1日まで前入り練習をしました。福井の海面は、夏季に開催されましたプレ国体にて一度経験をしておりましたが、インカレ初開催の前人未到の地であり、いつも練習する小戸とは違い、走らせ方、コースプランニングにおいて予測するのが困難で



あることが多い海面でした。プラクティスレースにおいても、北風

(海風)にもかかわらず、シフティでありブローがどこから入ってくるのか全く予想もできませんでした。

<Day1>

予報通りの微風によりD旗掲揚が見送られ、海上に出てもAP旗が掲揚されるなど風待ちをする状態が長く続きました。国際スナイブ級、国際470級どちらも第1レース目がスタートしたものの、トップ艇がフィニッシュする直前に大会規定のタイムリミットを超えたため大会初日はノーレースで終わりました。九大チームとしては、そのレースが完了していた場合、目標としていた総合優勝から離れることになりましたので、間一髪といったところでした。2日目も微風予報ということから、反省MTGをしっかりと行い、次のレースへ気持ちを高めつつ、1日目を終わりました。

<Day2>

大会1日目に引き続き、微風であったため午前中は風待ちとなりました。午後から少しずつ風が上がり始め、両クラスとも第1レースを消化することができました。微風の中、コース



を引くことが
難しく、スタートが重要な
ポイントとなる
レースでした。九大チームは苦戦を

強いられ、レース 2 日目を終えた時点で 470 級が 11 位、スナイプが 18 位、総合が 13 位。チーム全体が奈落の底に落ちたような雰囲気になっていました。しかし「まだたったの 1 レース。選手を信じて待っていてほしい」という高山主将の言葉に、部員全員が前向きに明日のレースに臨みました。

<Day3>

前日までの
穏やかな福
井の海とは
一変し、朝
から雨が降
る中、高い
波と突然の



強風で大会 3 日目は大荒れとなりました。しかし、第 2 レーススタート時、ゼネリコを繰り返すなかで 470 級が 1 艇 BFD により、除外されてしまいました。残りの 470 級の 2 艇とスナイプでなんとかしようとしてレースに望みましたが、レースの途中に前線が通過し、ノーレースとなりました。海上では APH 旗が掲揚され全艇ハーバーバックしました。艇体放棄や支援艇の遭難などのトラブルが発生した大学もありましたが、九州大学は日頃の練習で培ったレスキューワークを発揮し、万全のサポート体制で人命・艇ともに無事着岸することができました。幸いにも全大学部員の無事が確認され、陸上本部よりで APA 旗が上がりました。最大 5 レースが予定されていた大会 3 日目でしたが、1 レースも成立することなく終了しました。

<Day4>

前日の前線通過による
海難事故と未だ 1 レースしか消化できてない
という状況から大会成
立すら危ぶまれ、誰も
が不安を抱きながら迎



えたレース最終日。昨日からの波が少し残っており、安全面を考慮して定刻より 1 時間ほど様子を見たのちに D 旗が揚げられました。海面では 10knot 前後の九大が得意とする風が吹いていました。第 2 レースは、前日にノーレースになったスタートの BFD が繰り越され、470 級 2 艇とスナイプ 3 艇で挑みました。同レースが終わった時点で 470 級 10 位、スナイプ級 9 位、総合 11 位と入賞にはまだ届かず。しかし、サポートはレギュラーを信じ、レギュラーもまたひとつでも前を走るという意気込みのもと、第 3 レースに臨みました。他大学がなおスタートでリコールを出す中、九大は両クラスとも全艇がスタートを決め、470 級の 2 艇がシングルで 1 上マークを回航、スナイプもトップで回航しました。勢いそのままに走り抜け、これまでの成績を大きく覆し 470 級が 8 位、スナイプ級は 6 位入賞、総合 5 位入賞という結果を収めることができました。また、第 3 レースに限ってみれば両クラス合わせて 76 点と全大学で最も低い得点に抑えられたことも注目すべき点ではないでしょうか。

BFD に 2 度の審問、非常に少ないレース数と終始苦戦を強いられたましたが、最後まであきらめず仲間を信じて戦い抜くことで総合入賞をつかみ取ることができました。OB コーチはじめ、帆友会の先輩方や保護者の皆様の多大なるご声援に大変感謝しております。「当たり前のことを当たり前にする」ことの難しさを痛感した本レガッタ、これを糧に来年大きく成長しようと心に誓いました。応援ありがとうございました。(岩井、岩原、末永、寺井)

今月のピカイチ宿

今月号は全日本インカレ号ということで食当はご紹介できません……。

ということで、食当枠をお借りして、今遠征で宿泊させて頂いた城山荘についてご紹介致します。若狭高浜町に立地し、若狭の美しい海を臨む城山荘。色々ご紹介したいのですが、お食事について紹介させていただきます。ご覧下さい。このお食事を。色々な



方から「大学生にはもったいない」と言われてしまいましたが、ご飯のおかわりも自

由でこのボリューム。選手は体重を減らしてはならず、サポートメンバーはメンタルも削らせてはなりません。疲れた体と心を癒すお食事を提供して下さった旅館の皆様には厚く御礼申し上げます。他にも様々な申し出を快くお受け下さり、部員一同大変満足しております。皆様も若狭へ行く機会がありましたら是非、城山荘をご利用ください。私もこの遠征でなぜかふっくらと太りました。(入江)

新生九大ヨット部始動！

福井での全日本インカレを終え4年生の先輩方が引退され新しい代が始まりました！レギュラーメンバーが多く引退し、インカレのレース経験のある部員は大幅に減少しました。しかし、「当たり前」の事を「当たり前」にチームに落とし込み、インカレに出場経験のない部員がインカレでも十分に戦えるよう、「当たり前」の基準を引き上げ、習



慣化することができれば必ずインカレでも前を走ることができると思っています。

新しい代では全52名のうちマネージャーが15名います。マネージャーが主体性を持って部を運営していくスタイルを確立していき、全ての部員がやりがいを感じ、成長できたと胸を張って言える組織にしていこうと考えています！これまでの先輩方が築いて下さった90年の土台の上に私たちの色を積み上げ、ヨット部が更に強く更に良い組織になれるように精進して参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。(水之江)

BEST📷シヨット ver.全日



コントラストが映える、4マネ二人と背後に写る未来の4マネ。

青い空に白いセール！
これぞ青春の思い出...



素人でも高いカメラを使えば、こんな写真も撮れちゃいます。